大分市立
野津原小学校
学校だより

のつはる

主体的に学び 行動できる児童の育成

第14号
令和8年10月14日
校長 水田 匡彦

■運動会で自立・貢献の練習中

運動会の練習を開始したのは、本番3週間前です。そして、本番4日前の10月13日（火）に総合練習を行いました。ふり返りをして本番を迎えたいと思います。運動会では、4年生以上の子どもたちが、出発・招集、放送、準備、審判、記録・救護、応援と、様々な係活動を行い、運動会を支えてくれています。係活動なくして運動会は成立しないと言っても過言ではありません。それだけ、子どもたちは運動会の運営に貢献してくれています。運動会では、この縁の下の力持ちの部分についてもご覧いただければと思います。よろしければ、ご家庭で話題にもしてみてください。子どもたちは、日々の学校生活や学校行事を通して、少しずつ、自立、貢献の練習をして、大人になる準備を進めています。

■見逃せない運動会の表現

運動会の楽しみのひとつが表現。低学年（のつはる☆ワンダーランド）、中学年（NO☆TSU☆HA☆RU サンバ!! 2026）、高学年（輝け☆野津原の花唄）の表現・ダンスを、ぜひ、見逃さないようにご覧ください。僭越ながら、学生の時、社交ダンスをしていた者として、かっこよく踊るための4箇条を子どもたちに伝授しました。①姿勢を良くする、特に首（ネック）をすっきり伸ばす、②指先まで意識して伸ばす、③静と動のメリハリを付けて、止めるときは止めて決める、④仮に①から③が多少疎かになったとしても、笑顔を忘れない。総合練習では、笑顔の素敵な子どもがたくさん見られました。その一部をご覧ください。見ている方も楽しくなる笑顔はよいものですね。

柔和な笑顔で有名な方のインタビュー記事を読んだことがあります。そこで語られた言葉が、とても印象的でした。「私の笑顔は、意識して無理してでも作ってきた努力の賜物。」その方は、いつも、天性の笑顔でよいですねと言われ続けてきたのでしょう。それを否定しています。笑顔は天性のものではなく意識して努力した結果と強調していました。笑顔も相手意識のひとつ、ということになります。日常的に意識して努力して笑顔でありたいものです。

■応援団長インタビュー

運動会が目前に迫りました。応援団は少しでも良い応援パフォーマンスができるように、赤組、白組とも、協力して、練習に励んでいます。練習で応援パフォーマンスを見ると、どちらの動きも声も甲乙つけがたいくらいに完成度が高まっていると感じます。そんな応援団を率いる応援団長に、インタビューを行いました。赤組、白組の自慢できる点や、相手の良い点も教えてもらいました。応援団長インタビューをお楽しみください。

	赤組応援団長		白組応援団長
楽しいこと	みんなで協力して、うまくいった瞬間に、楽しいと感じる。		型の練習など、みんなが協力していると感じたときに、楽しいと感じる。
難しいこと	指示することと、みんなの動きを揃えることが難しいと感じる。		みんなに伝わるように説明することが難しいと感じる。
組の自慢	みんな協力してくれることが自慢。特に、大きな声と、テキパキした動き。		真剣に取り組むことが自慢。声が大きく、みんなのやる気が伝わってくる。
相手の良い点	開会式直後のゴーゴーゴーの歌で、大きな声が出ている点。		応援パフォーマンスをしているときの姿勢が良い点。
最後にひとこと	楽しむことを忘れずに、協力してがんばりますので、赤組に注目ください。		全力で声を出してがんばりますので、白組の応援を見ていてください。